



「青春に悔いなし」

「青春に悔いなし」部活動は、まさしくこの言葉が当てはまると言えます。
それまでの努力や仲間と切磋琢磨してきたことは、人生において大きな財産となることでしょう。
さて、5月中旬から始まった高体連大会では、本校生が健闘しました。試合そのものだけではなく、その過程や今後のことについて、いくつかの部活動の生徒たちに語ってもらいました。
現在は吹奏楽部が奏でる音が、校舎内に響きわたっています。その音色は
とても心地良く感じます。今後も多くの人が活躍し成長することを期待します。



「感謝」

陸上競技部主将

5月13日(月)から5日間にわたって行われた高体連が終了しました。
私は400m、800m、1500mに出場し、そのうち400mと1500mで自己ベストを大幅に更新することができました。しかし、目標を達成できず、予選敗退という悔しい結果に終わりました。
私は「最後の高体連では必ず全道を決める」という目標を持って練習に取り組んできました。あまり自信がなく、不安を抱える時期もありましたが、多くの人が応援してくれたことが私にとってはうれしく、一番の力になりました。私はそのおかげで頑張ることができました。
3年間指導していただいた先生方2人には、全道大会に連れていくことができず、申し訳ない気持ちで一杯です。それでも、最後まで見捨てず一番近くで応援してくれたことに本当に感謝しています。
私は進学先では陸上競技を離れようと考えていましたが、悔しいまま終わることはできないという気持ちになり、これからも陸上競技を続けることを決断しました。今後はもっと良い結果を伝えることができるように頑張っていきたいと思います。
3年間、たくさんの応援をいただきありがとうございました。

「困難を乗り越えて」

卓球部主将

僕が入部したのは1年生の高体連直前でした。この時の部員は3年生の先輩が一人だけでした。僕は先輩と組んでダブルスとシングルスに出場しました。しかし、この試合は勝てませんでした。先輩が引退してからは卓球部の部長になり、顧問の先生と練習する日々を送りました。
2年生ではインターハイでボランティア活動をする事になり、全国大会に出場する選手たちと触れ合う機会があり、多くのことを学びました。
しかし、練習を続けても勝つことができず、部員も増えずとても辛い思いをしました。一時はやめようと思ったこともありましたが、それでもあきらめず練習を続けました。
その結果、秋季大会でやっと勝つことができました。今までの努力の成果を発揮することができて、本当にうれしく思いました。
3年生になってからは、部活動見学や体験に来てくれる人が多く、卓球に興味を持ってくれる人がいて、とてもうれしく思っています。

「悔いを残さず大会を終えて」

バドミントン部主将

5月21日(火)から23日(木)まで3日間行われた高体連大会を振り返りたいと思います。

この大会は3年生最後の大会ということで、この春から新1年生を迎え入れ、一段と練習に励めました。

初日は団体戦が行われました。1回戦の相手は札幌あすかぜでした。団体戦は3つのダブルス戦と2つのシングルス戦で行われます。最終試合までもつれましたが、何とかものにして3対2で勝利を収めることができました。

この勝利はチームや選手にとって、とても貴重な経験となりました。何よりも、この団体戦においては悔いのない戦いができて、本当に良かったです。

この他の試合や個人戦では、全力を尽くしましたが、すべて初戦敗退となり、残念な結果となりました。それでも、私たち3年生はこの経験を今後の進路活動に生かしていきたいと思っています。

これからは後輩たちが練習にしっかりと取り組んで、悔いの残らない部活動をしていってほしいと思います。

「連合チームで勝利」

野球部主将

昨年の新チームから、野幌・札幌あすかぜ・札幌北斗・札幌東豊の連合チームとして多くの練習試合を行い、公式戦の勝利を目指して頑張ってきました。

昨年秋は札幌英藍と対戦し、6対8で惜しくも敗れました。シーズンオフの約半年の期間は、各校がチームとして、また個々の課題に向き合い、それぞれが努力を積み重ねました。一冬越してみんなが集まったとき、体格が大きくなったりして自分たちなりに成長したことを実感しました。

そうして迎えた春季大会の初戦の相手は北広島西でした。試合は初回到9点の大量失点というかなり苦しい展開となりました。しかし、チームの雰囲気はそれほど落ち込むことなく、少しずつ反撃していきました。中盤、一気に逆転して18対11で逃げ切りました。連合チームですが、東豊としては9年ぶりの勝利となり、とてもうれしく思いました。

続く2回戦ではシード校の恵庭北高校と対戦しました。初回到4点を先制し、自分たちのペースで落ち着いた試合運びをすることができました。時々ファインプレーが生まれるなど、とても楽しくプレーし、8対2で勝つことができました。

準決勝では強豪札幌龍谷に4対8で敗れましたが、今大会は私たちにとって大きな自信になりました。

連合チームは単独チームと違い、なかなかできない経験だと思います。これからも精一杯に取り組み、みんなで力を合わせて頑張っていきたいです。



(5月10日(金)スポニチ掲載)

【編集後記】

札幌では先週、夏を告げる「2024年 第33回 YOSAKOIソーラン祭り」が行われました。

さて、今回は部活動の特集しました。実は野球部の2回戦当日、隣の札幌円山陸上競技場でも試合が行われていました。陸上部主将が熱心にアップをしていた姿が目に残りました。試合後、「先生、野球部おめでとうございませう。私も頑張ります」と声をかけられました。うれしい気持ちとともにとても感動しました。「他人を応援できる人は本当に素晴らしい人である」とよく言われますが、そのことを実感するシーンとなりました。

なお、部活動の大会結果等については、広報誌を通じて今後お知らせする予定です。ご了承ください。[青]